

## 島根県で初確認されたマイヅルテンナンショウについて

柳 浦 正 夫\*

### First Record of *Arisaema heterophyllum* Blume from Shimane Prefecture

Masao Yagiura

#### 1. はじめに

マイヅルテンナンショウ *Arisaema heterophyllum* Blume はサトイモ科テンナンショウ属のウラシマソウ節に属する植物で、「改訂新版日本の野生植物図鑑1」(大橋ほか, 2015)によれば, 低山の草原や湿地に生え, 偽茎は高さ30-70cmで, 葉柄および花序柄より長く, 葉は1個で鳥足状に17-21と狭倒卵形または線形全縁の多くの小葉をつける。また頂小葉は両隣のものより



写真 生育状況

著しく小型になる。花序柄は葉柄より長い。仏炎苞はふつう緑色で一部紫色を帯びる。腋部は広卵形で, 基部はいちじるしく狭まり, 先は尾状に伸び鋭くとがる。花期は5-6月で, 花序と付属体との間に柄がなく, 付属体は基部がやや太く, その上で前に曲がり, さらに上方に向かって長く伸び20-30cmになる。本州(岩手県より岡山県まで点在)から九州, 朝鮮半島南部, 中国, 台湾に分布するという。

全体が緑色で付属体が細長く上に伸びるなど特異な姿をしており, 隣接する県に分布することから島根県でも分布するのではないかと注意していたが, 吉賀町柿木村在住の田中哲郎氏により石見奥地で確認されていたことを知り, これを機会に報告するものである。

#### 2. 発見の経緯

田中哲郎氏によれば確認されたのは2013年6月11日で, 詳細は記述しないが奥石見で確認された。また同地の別の場所にも数m内に群生しているのが確認されている。マイヅルテンナンショウは, 秋村(2005, 2006)と「島根県大百科事典上・下」(島根県大百科事典編集委員会, 1982a; 1982b)の丸山巖氏の記述でも記録がないことから島根県初記録と判断される。

#### 3. 近県における分布状況

広島県においては, 「広島県植物誌」(広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会, 1997)では記載がないが, 「広島県の絶滅のおそれのある野生植物(第3版)」(レッドデータブックひろし

\* 島根県立出雲高等学校, 〒693-0001 島根県出雲市今市町 1800

Shimane Prefestural Izumo Senior High School, 1800, Imaichi-cho, Izumo, Shimane, 693-0001, Japan

ま改訂検討委員会, 2012) では, 2003年に県内で初めて発見されたとし, 県東部の各地での報告が示され, 絶滅危惧 I 類に指定されている。

山口県においては「山口県植物誌」(岡ほか, 1972) では県東部の標本をあげ, ごく稀としている。これは鳥根県の県境と近い場所である。「レッドデータブックやまぐち」(山口県野生生物保全対策検討委員会, 2002) でも同様の記載があり, 限定された1ヵ所のみ分布するよう絶滅危惧 I A 類と絶滅の危険性が極めて高いものに分類されている。

岡山県においては「岡山県版レッドデータブック」(岡山県生活環境部自然環境課, 2003) では中部と北部の生育が報告されており, 絶滅危惧種になっている。

鳥取県については「レッドデータブックとっとり」(鳥取県自然環境調査研究会, 2002) で記録はなかったため確認されていないものと考えられる。

#### 4. さ い ご に

マイヅルテンナンショウは, 「原色植物分類図鑑日本のテンナンショウ」(邑田, 2011) によれば日本や韓国, おそらく中国東北部まで分布し,  $2n = 168$  の12倍体であるという。また, 台湾や中国中・南部では  $2n = 28$  の2倍体としている。また, 国内の分布として東北地方, 関東地方, 近畿から中国地方南部・四国・九州の3つのまとまりがあるようである。

この種は中国地方の各県で稀なものようであるが, 全国的にも希少で環境省のカテゴリーでも絶滅危惧 II 類 (VU) に指定されている。このような貴重な種であるため, 分布について全く公表しないで特定の機関や人物だけで管理していく方法もあるが, 鳥根県での分布を報告して, 植物の研究へ貢献することも重要なので, 発見者の了解を得て公表することにした。そのため県内に分布していること以外の情報が拡散され, 乱獲されることが一番危惧されることになる。具

体的な情報を知りえても他人に伝え, 情報を拡散させたりすることのないよう慎重に扱うことが必要である。

貴重な植物を発見され, 情報提供いただき発表の機会を与えていただいた田中哲郎氏にこの場を借りて深謝いたします。

#### 引用文献

- 大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司 (2015) 改訂新版日本の野生植物1 ソテツ科~カヤツリグサ科. 391pp. 平凡社. 東京.
- 邑田 仁 (2011) 原色植物分類図鑑日本のテンナンショウ. 265pp. 北隆館. 東京.
- 岡 国夫ほか (1972) 山口県植物誌. 607pp. 山口県植物誌刊行会. 山口.
- 岡山県生活環境部自然環境課 (2003) 岡山県版レッドデータブック. 465pp. 岡山県環境保全事業団. 岡山.
- 鳥根県大百科事典編集委員会 (1982a) 鳥根県大百科事典上巻. 1088pp. 索引71pp. 山陰中央新報社. 鳥根.
- 鳥根県大百科事典編集委員会 (1982b) 鳥根県大百科事典下巻. 1024pp. 索引66pp. 山陰中央新報社. 鳥根.
- 秋村喜則 (2005) 鳥根県の種子植物相. 鳥根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.
- 秋村喜則 (2006) 鳥根県の種子植物相 (補遺). 鳥根県立三瓶自然館研究報告 4: 41-43.
- 鳥取県自然環境調査研究会 (2002) レッドデータブックとっとり. 203pp. 鳥取県生活環境政策課. 鳥取.
- 広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会 (1997) 広島県植物誌. 832pp. 中国新聞社. 広島.
- 山口県野生生物保全対策検討委員会 (2002) レッドデータブックやまぐち. 513pp. 山口県環境生活部自然保護課. 山口.
- レッドデータブックひろしま改訂検討委員会 (2012) 広島県の絶滅のおそれのある野生植物 (第3版). 632pp. 広島県. 広島.